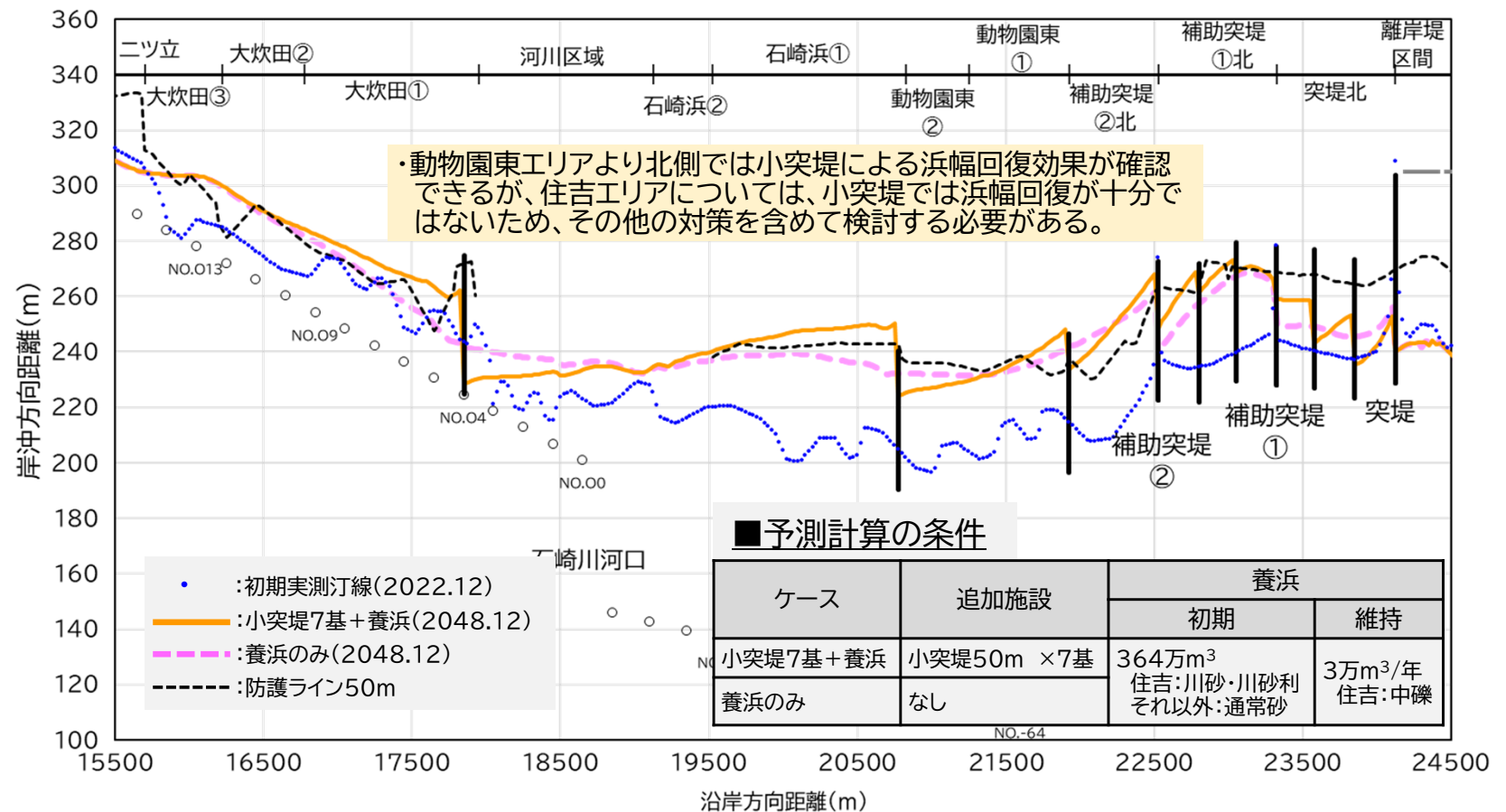


5. 予測計算結果の効果比較

- ・「小突堤＋養浜」と「養浜のみ」を事業完了から10年後で比較すると、「養浜のみ」では大炊田や石崎浜では汀線後退が顕著であり、小突堤の制御効果が確認できる
- ・通過土砂量はほぼ同じであるが「小突堤＋養浜」は「養浜のみ」よりも4%程度削減できる



通過土砂量

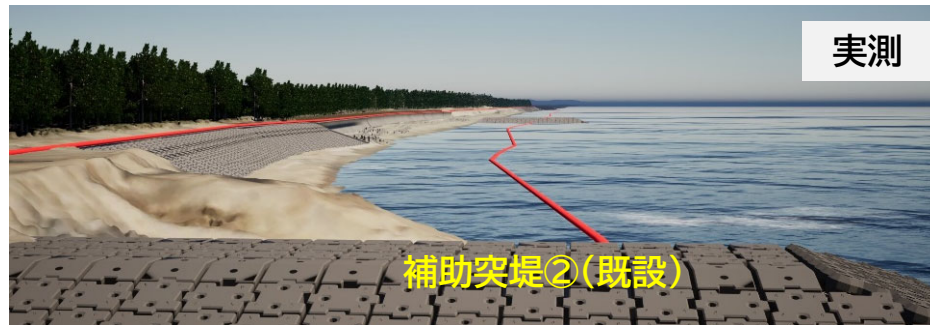
ケース	港湾境界の 累積通過土砂量 (～2048.12)
小突堤7基 ＋養浜	460万m ³
養浜のみ	481万m ³



6.予測計算結果の伝え方

※技術分科会後に修正

T.P.+1m程度(H.W.L.程度)



T.P.±0m程度(平均潮位程度)



T.P.-1m程度(L.W.L.程度)



2023(R5)年12月測量



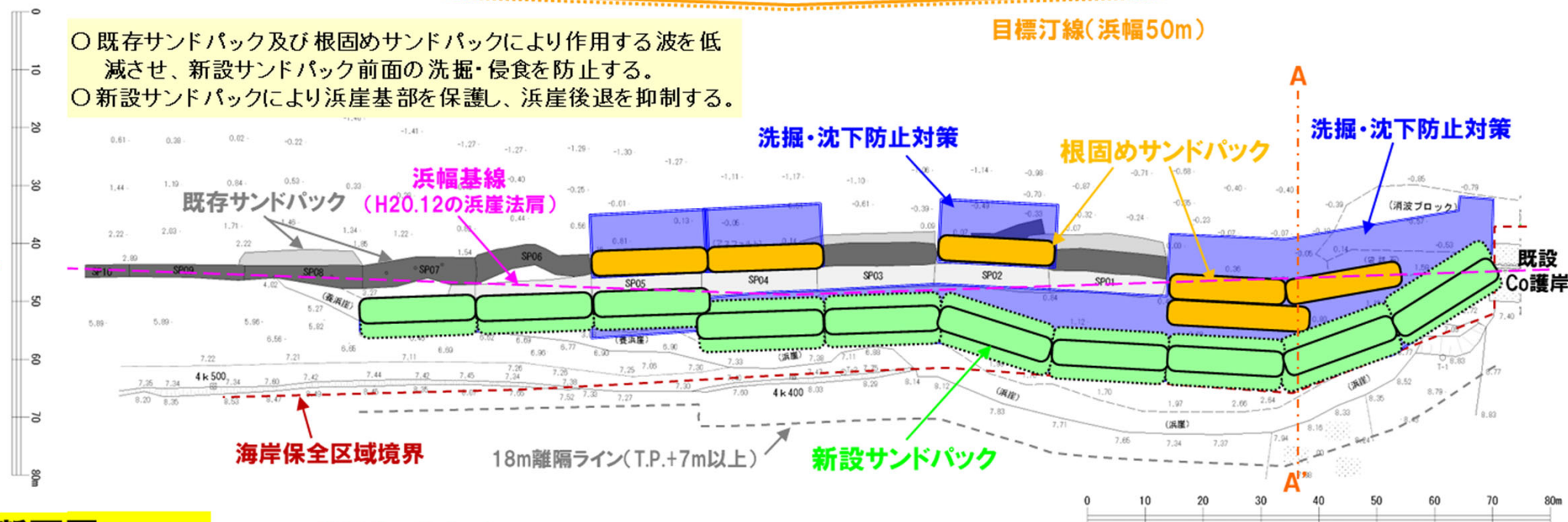
等深線変化モデルによる予測結果を参考に作成したイメージ図

7.先行着手の検討 (1)設置箇所周辺の施設の状況

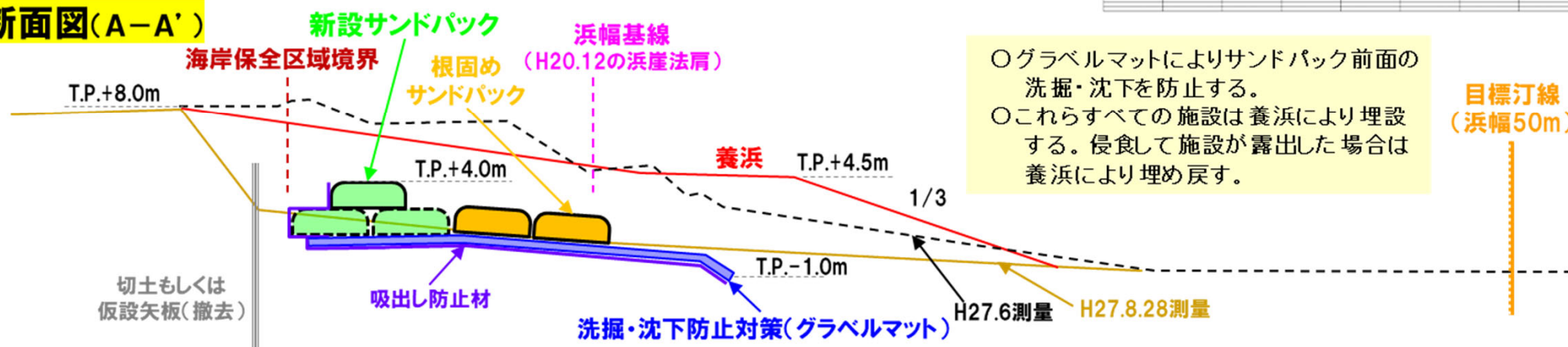
1)北側のサンドバックの設置状況

- 60 -

平面図



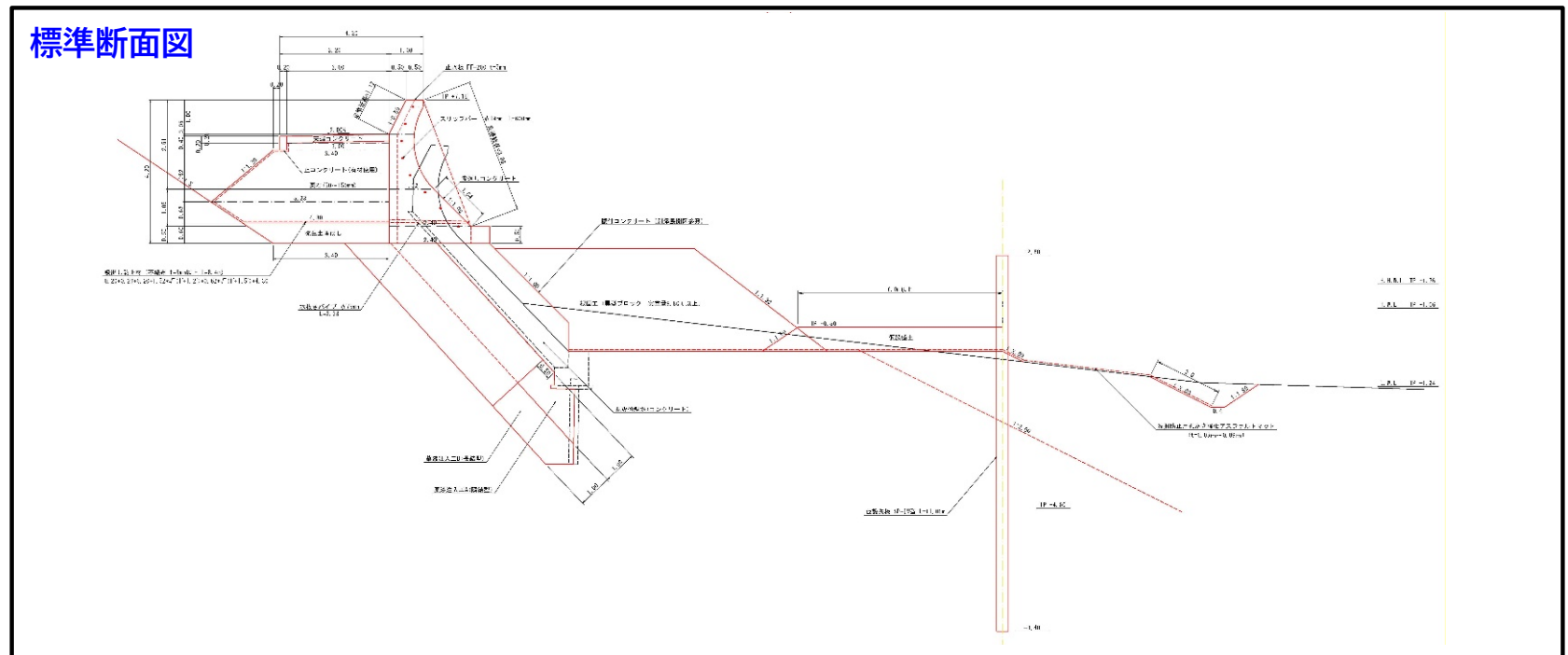
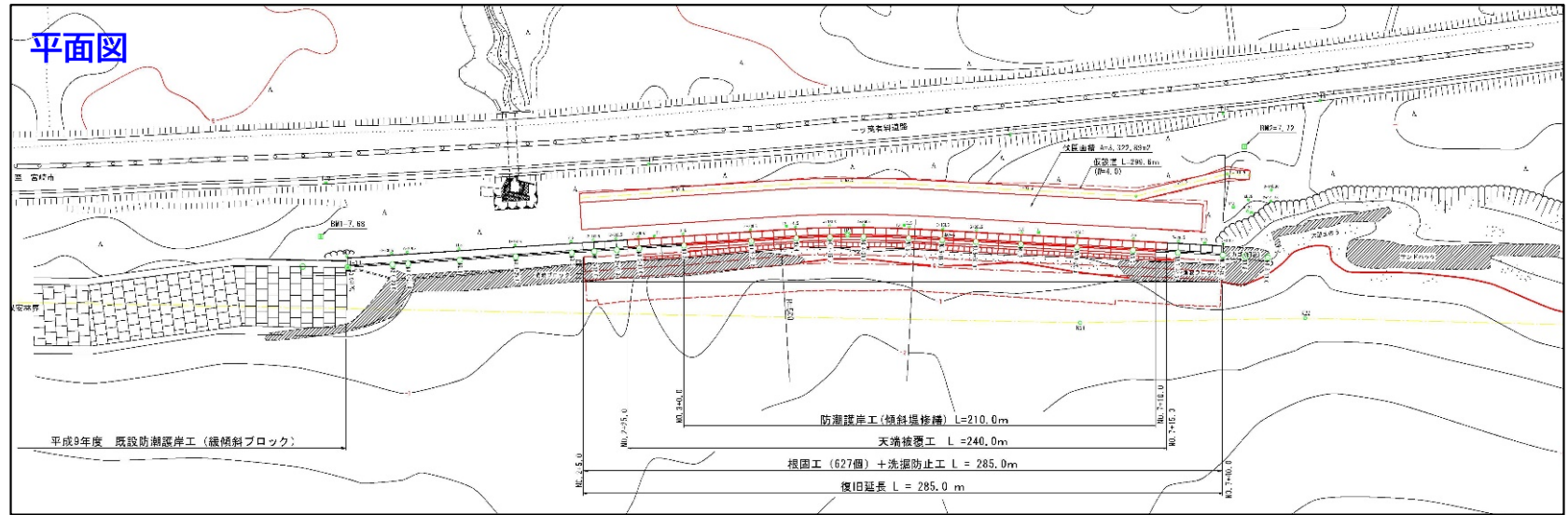
断面図(A-A')



7.先行着手の検討 (1)設置箇所周辺の施設の状況 2)南側のコンクリート護岸の復旧状況

- 61 -

- ・小突堤南側の傾斜護岸(勾配1/3)区間は平成27年8月に台風15号により前面侵食に伴う護岸内部の吸出しが生じ、護岸本体が沈下した。
- ・上記の被災の災害復旧では護岸北端から285mの区間において根固工(消波ブロック)・洗掘防止工(アスファルトマット)を設置し、再度災害防止が図られている。



7.先行着手の検討 (2)設置位置による予測地形

1)比較まとめ

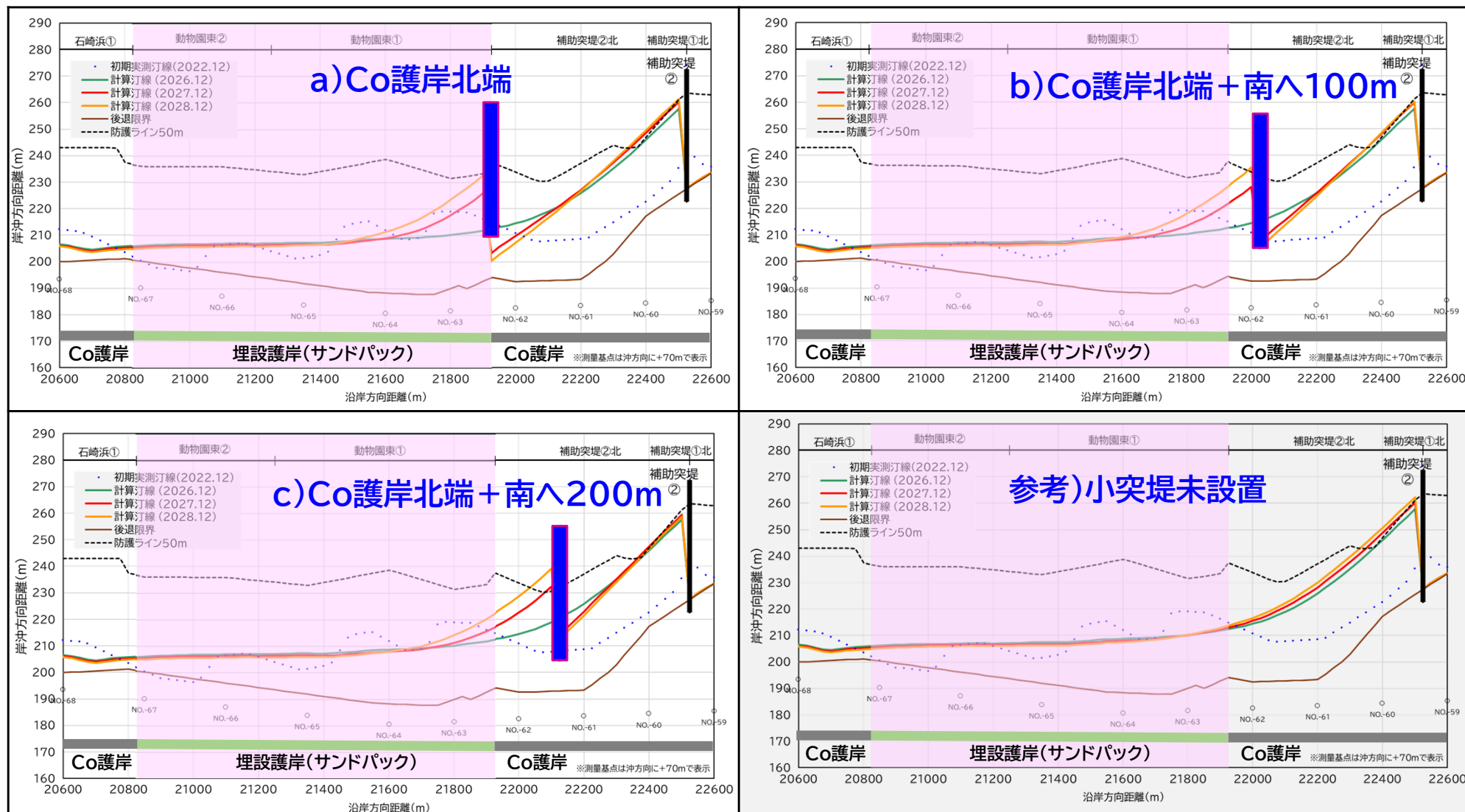
●計算条件

計 算 期 間: 2023(R5)年1月~2028(R10)年12月

施設の設置: 2027(R9)年3月 50m

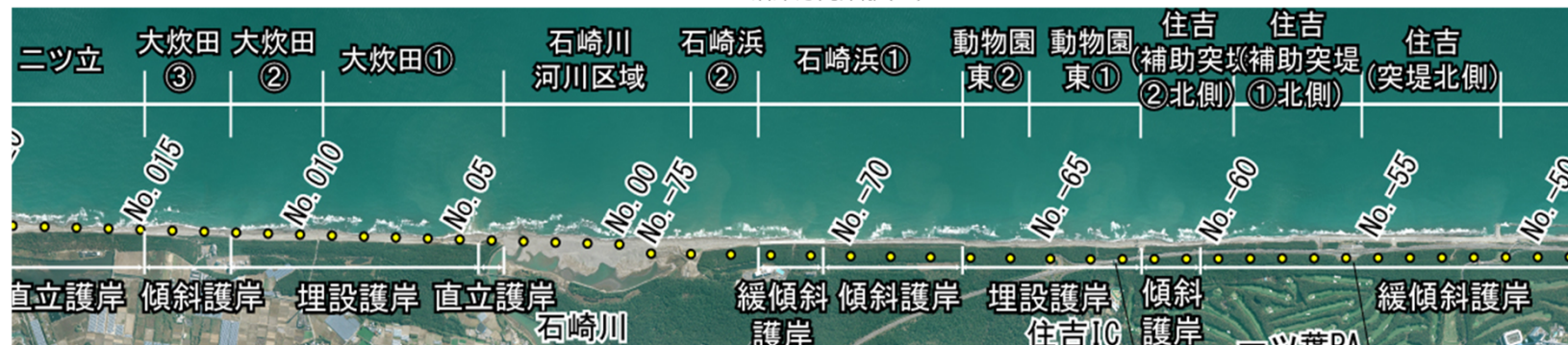
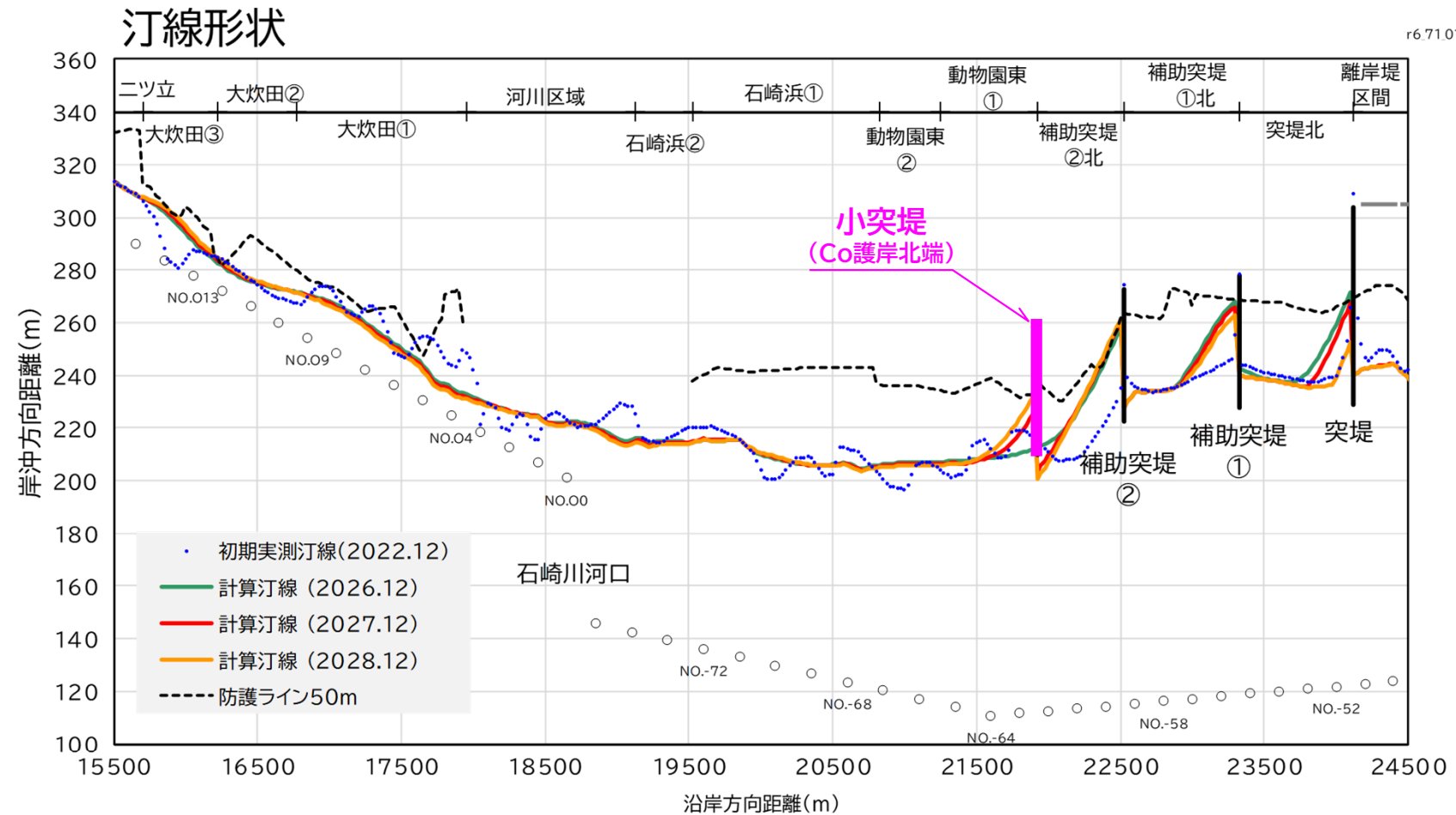
養 浜: 未実施(R5年度の実績は考慮)

- 62 -



7.先行着手の検討 (2)設置位置による予測地形

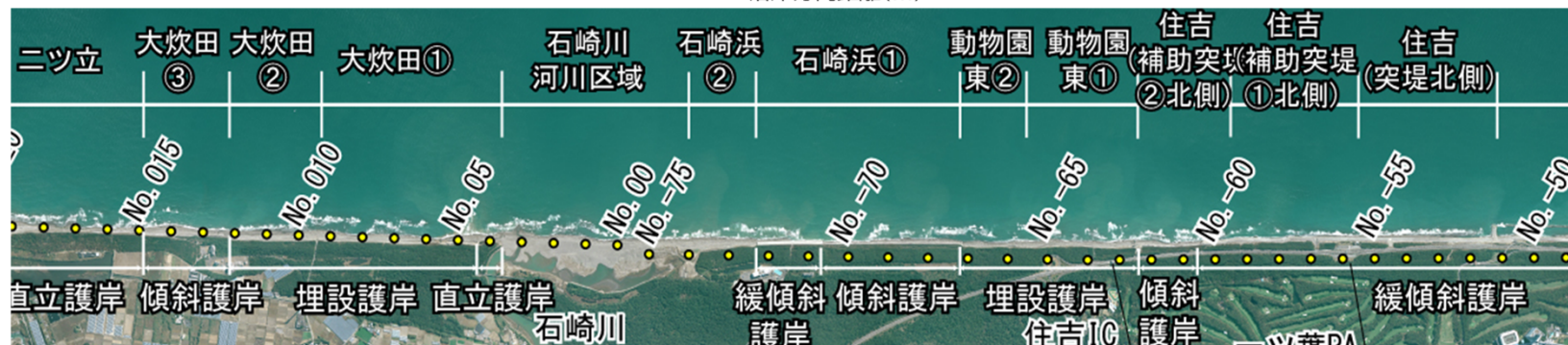
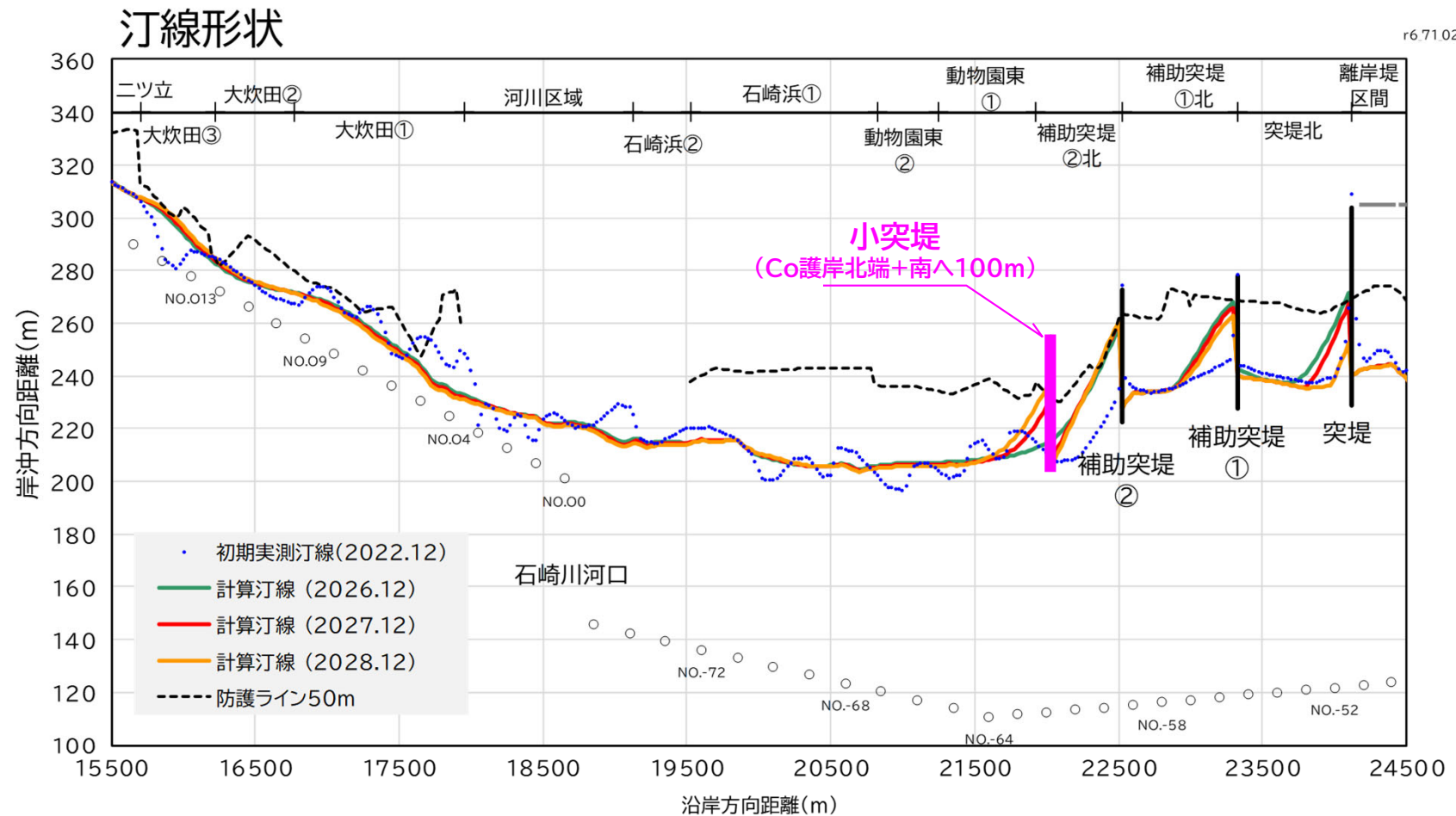
2)コンクリート護岸北端



7.先行着手の検討 (2)設置位置による予測地形

3)コンクリート護岸北端+南へ100m

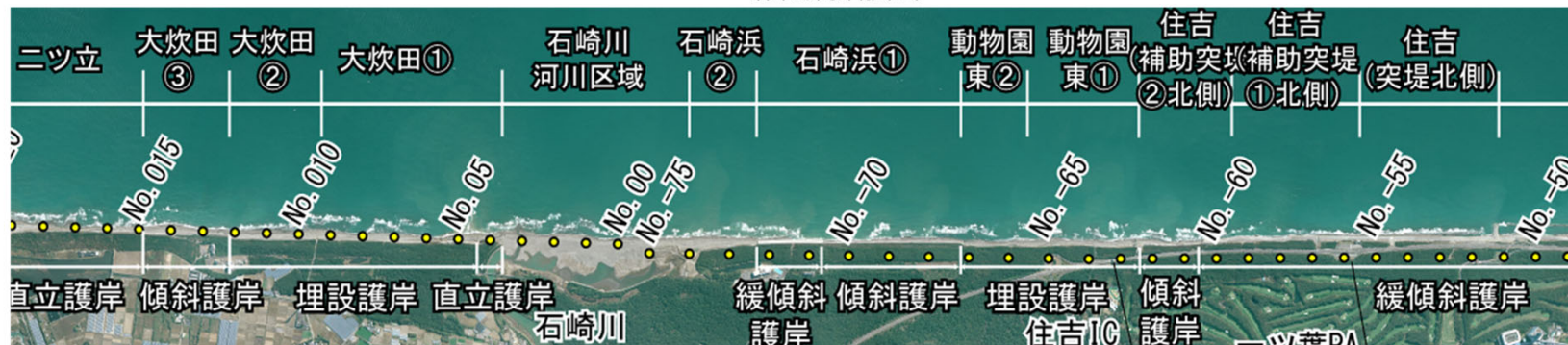
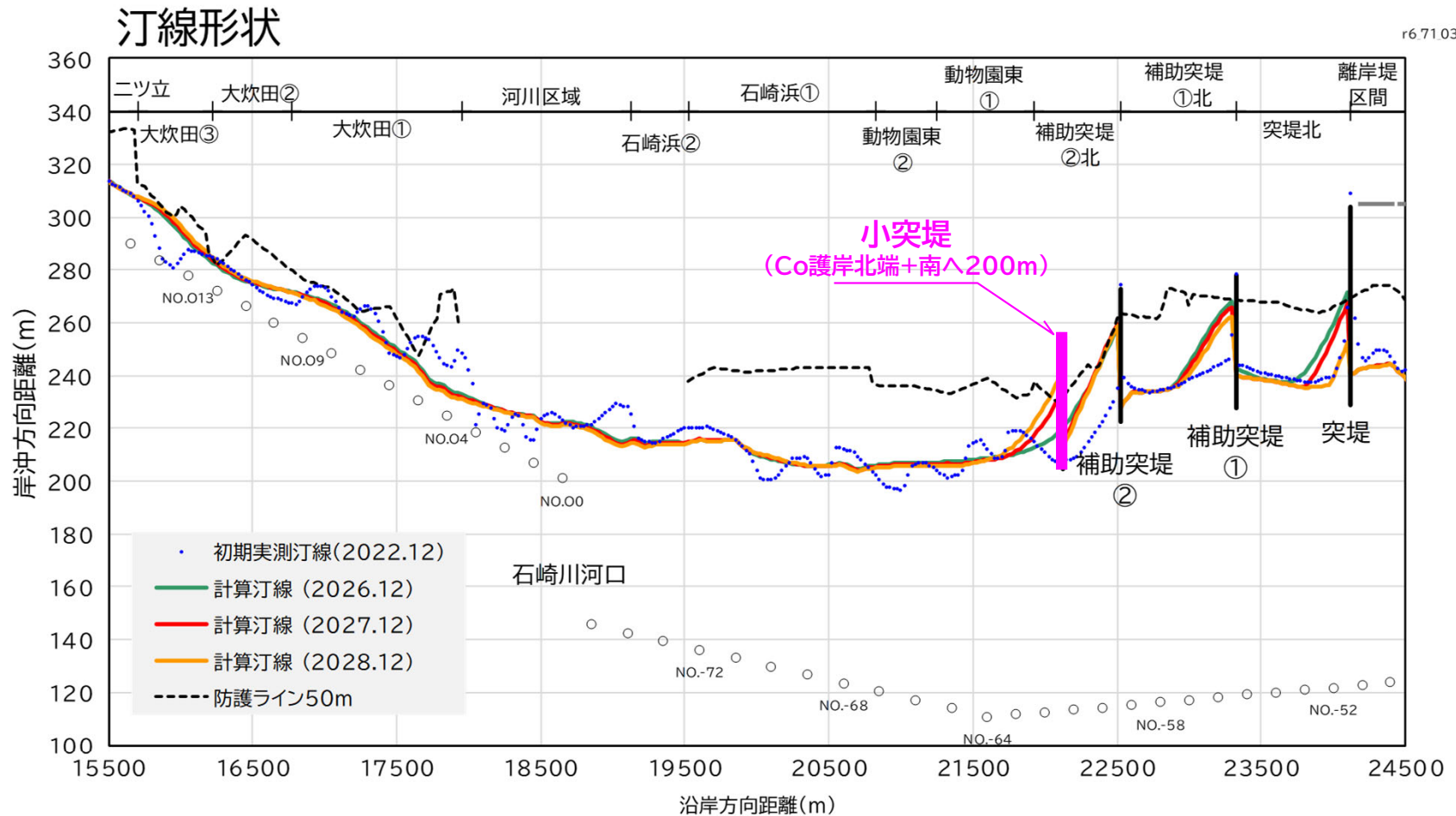
- 64 -



7.先行着手の検討 (2)設置位置による予測地形

- 65 -

4)コンクリート護岸北端+南へ200m



7.先行着手の検討 (2)設置位置による予測地形

- 66 -

5)小突堤未設置[参考]

